

臨床実習 (検査・測定実習)

[実習] 第2学年 後期 必修 5単位

《担当者名》桜庭聡 s-saku@hoku-iryo-u.ac.jp 坂上哲可 鎌田樹寛 本家寿洋 浅野雅子 児玉壮志 浅野葉子 朝日まどか
依田泰知 齋藤隆司

【概要】

ディプロマポリシーに掲げられている5つの要件に沿って、臨床実習指導者の指導・教育のもと、対象者の生活に必要な情報の収集、面接や行動観察、検査・測定の目的と手順を理解し、臨床実習指導者の手引に基づいて結果を対象者の状態に結び付けて考えるプロセスを身に付けることを目的とする。特に技能面として正確性や再現性のある検査・測定が実施でき、その結果を解剖・生理・運動学的用語を用いて具体的に口頭及び書面にて報告する力を養う。さらに、実習を通して自身の検査・測定プロセスに対する自己評価を行い、自らに対する改善点を提案する姿勢を身に付けることも目的とする。

【学修目標】

作業療法学生として資質を高めるために、対象者との接し方や評価技法などを中心として臨床実習指導者の臨床実践の見学、模倣、指導のもとに実施することができることを目標とする。

- 1) 作業療法学生、臨床で働く社会人として責任ある態度、行動をとることができる
- 2) 臨床実習指導者と共に対象者の病態、疾患像、障害像を考慮した上で必要な評価方法を選択し、時間や場所など環境に配慮しながら正確性、再現性のある評価を遂行できる
- 3) 得られた評価結果を解剖・生理・運動学的用語を用いて口頭及び書面にて具体的に報告できる
- 4) 臨床実習指導者と共同して考える形で、評価結果の整理、解釈ができる(焦点化までは求めないこととする)
- 5) 多職種連携について理解することができる
- 6) 自身の検査・測定に対して内省し、適切な自己評価を行い改善点を提案できる
- 7) その他実施したことを適切に記録し、必要に応じた報告をすることができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	オリエンテーション	検査・測定実習の位置づけや目的、その内容について説明することができる 臨床実習 で見えた学生自身の課題点や利点について説明することができる 全体へのオリエンテーションと、学生個人に対する教員とのオリエンテーションの両方を含む	担当者全員
	実習前客観的臨床能力試験 (pre OSCE)	臨床現場を想定した、医療面接及び評価技術に関するOSCEを実施する	担当者全員
	臨地実習	医療機関において実習を行う	臨床実習指導者
	実習後客観的臨床能力試験 (post OSCE)	臨床現場を想定した、医療面接及び評価技術に関するOSCEを実施する	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習日誌、検査・測定記録、実習チェックリスト、出欠表の提出物 20%

検査・測定結果報告書 10%

自己評価レポート 10%

実習前後OSCE 60%

【教科書】

臨床実習の手引き

矢谷 令子 他 編 「作業療法評価学(第3版)」 医学書院 2017年

【備考】

授業実施形態については臨地での実習を基本とするが、臨地実習だけではなく学内での実習前後の準備やまとめなどの取り組みも含まれる。

【学修の準備】

臨床実習の手引きを熟読し、必要な準備を行うこと。

日ごろの講義・演習の時間を十分に活用すること。

実習では「大学で習っていない」ことも生じる可能性がある。どのように調べたら良いか、どのように学習を進めたら良いかなどを予め理解・準備しておくことも、大切な準備の一つであることを念頭に置くこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2. 作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

桜庭聡（作業療法士）、坂上哲可（作業療法士）、鎌田樹寛（作業療法士）、本家寿洋（作業療法士）、浅野雅子（作業療法士）、児玉壮志（作業療法士）、浅野葉子（作業療法士）、朝日まどか（作業療法士）、依田泰知（作業療法士）、齋藤隆司（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

各教員の臨床での実務経験を活かし、学生が大学で学ぶことと臨床で得られることを繋げられるように指導していく。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している